



ているるちゃんがいく!

vol.

80

2025.10



うるま市 果報パンタ かふう

特集 第7期「ているる塾」開講式

- ・連載 ているる塾修了生コラム 第14回 4期修了生 中眞文子さん
- ・ているる利用者アンケート・ているる図書情報室講座
- ・事業報告 女性相談支援員新任（養成）研修・女性起業塾等
- ・講座案内 「ているる塾」公開講座 「沖縄から世界へ 逆境をチャンスに変える小さなヒント」等
- ・夏休み親子講座の事業報告・ているる相談室のご案内



おきなわ女性財団
ホームページ



沖縄県男女共同参画
センター「ているる」
ホームページ

第7期「ているる塾」開講！



～ているる塾とは～

女性が様々なライフステージの中で自分の持てる力を最大限発揮するため、論理的思考力、マネジメント力、コミュニケーション力等を伸ばし、職場、家庭、地域それぞれの場で活躍できる人材を育成するための講座です。さらに、塾生同士で刺激し合いながら、講座終了後も支え合う仲間となっていくネットワークづくりを目指します。沖縄県と公益財団法人おきなわ女性財団が主催し、令和元年度に開講しました。これまでに第1期～第6期、164名の塾生が修了しています。

9月11日(木) 第1回 開講式

今年度は、20代4名、30代10名、40代2名、合計16名の第7期生が受講します。

公益財団法人おきなわ女性財団の亀濱玲子理事長は、開会の挨拶で塾生に激励の言葉を送りました。「沖縄県は今年戦後80年を迎えます。戦後の沖縄では、本土に先駆けて女性の選挙権が行使されました。未だ基地を抱える沖縄では、女性への被害や課題が山積しております。沖縄が抱える様々な課題に対し、女性たちがしっかりと意見を持って、福祉や医療や教育や人権というところを意識して声を上げていくことが、求められ続けていると思います。“ているる”とは“照り輝く”という意味の言葉で、この沖縄県男女共同参画センターているるは、女性たちが活躍し、照り輝くような沖縄を目指してという願いが込められています。皆さんのが“ているる塾”に集い、出会い、学んでいく中で生まれるネットワークがこれから支えとなり、活かしていくもの信じています。これからの5か月が実り多いものになるよう、心から願っております。どうぞ皆さん、楽しんで頑張ってください。」



(公財) おきなわ女性財団
亀濱玲子 理事長



沖縄県 こども未来部
真鳥裕茂 部長

沖縄県内に在住する成人女性（40代まで／性自認が女性の方も含む）を対象に塾生を募集し、今年度は16名の塾生が選考されました。

全9回のプログラムでは、コーディネーターの佐藤ひろこ氏（インタビューライター／キャリアコンサルタント）を中心に4名のアドバイザーによるサポートも受けながら、沖縄県内外の各分野で活躍している講師による講義から様々な学びを得ながら、グループワークなどを行います。最終日には、男女共同参画をテーマにグループワークで課題検討した内容について報告を行います。

また、ているる塾の塾長である玉城デニー沖縄県知事に代わり、沖縄県こども未来部の真鳥裕茂部長は、講話で塾生に熱いメッセージを送りました。「第7期生として入塾された皆さん、おめでとうございます。ているる塾は著名な講師陣、グループワーク等カリキュラムも充実しておりますが、やはり人脈をつくるというのが一番の魅力です。共に議論しながら学び、互いに刺激し合い、交流していただきたいと思っております。

1つ私の経験談をお話します。私は立場上、部下からの相談を受けることがあります、「学歴コンプレックスから、会議の場で率直に発言できない。」という相談を受けたことがあります。私自身も若い頃は同じような経験がありました。しかし、様々な本や研修・講演会に参加し、社会人になってからは学歴は全く関係ないということを学びました。大事なのは「吸収することに貪欲であること」「仕事に取り組む姿勢」「チャレンジ」です。我々人間は他人と比較しがちですが、他人ではなく昨日までの自分と比較し、ステップアップしていただけたらと思っております。これから“ているる塾”を通して成長し、輝く女性になってください。期待しています。」



開校式の様子



男女共同参画講座の様子

男女共同参画講座

開講式後には、沖縄キリスト教学院大学で人文学部長を務める新垣誠氏が「男女共同参画」をテーマとした講座を行いました。

新垣氏は、男女共同参画に関する言葉について丁寧に解説しながら、職場、家庭、地域それぞれの領域における課題の整理を示しました。

塾生たちは、これからグループワークで課題検討を行う為のヒントや気付きを得る時間となりました。



講師
沖縄キリスト教学院大学
人文学部長 新垣 誠 氏

ジェンダー・フリーとは？

初めにクイズです。「Q. 男女共同参画社会づくりは、男女の差異の解消を目指すものだ。Yes? or No?」

答えはNoですが、注目してほしいのは“差異”という所です。皆さん、ジェンダーという言葉はご存じでしょうか。ジェンダーとは、社会が作り出す性差のことです。例えば、男の子と女の子で着せる服の色が違う、見せるコンテンツが違う、そういういった外部の働きかけ・環境の中で作られていく違いのことです。男女共同参画社会づくりにおいてよく聞かれる言葉で“ジェンダー・フリー”がありますが、これには重要な言葉が抜け落ちていて、本当に言いたいのは“ジェンダー・バイアス・フリー”です。バイアスとは、偏見を意味します。つまりは、ジェンダーの違いによる偏見や差別から自由になることを意味しています。

もう1つ重要な言葉を紹介します。“リプロダクティブ・セクシュアルヘルス／ライツ”といい、日本語に訳すと“性と生殖に関する自己決定権”です。これは、自分の性（セクシュアリティ）や身体について、自らの自由意志で選択して決める権利があるということです。例えば、女性がいつ子どもを産むのか、どこで産むのか、どう産むのか、産まないのか、そういうことを自分で決定できるということです。男女というのは、どうしても体の差、性差があるので、例えば職場における生理休暇や産休・育休などで「産む性」に対する十分な配慮をしていくことが必要ですが、この性差を理由に差別や偏見があってはならないということです。

男女共同参画社会づくりにおいては、その差異をなくすことが目的ではなく、ジェンダーの違いや性差を理由とした偏見や差別をなくすことを目指しているということです。



男女共同参画講座の様子

日本の現状

“ジェンダーギャップ指数”をご存じでしょうか。これは、各国の男女間の不平等・格差を測る指数で、日本は146か国中118位です（2024年時点）。これは4つの指標で計算されますが、日本は健康や教育の分野では高評価の一方で、政治と経済の分野において男女格差が大きく、順位を押し下げています。

日本は1970年代の高度経済成長期に「男性は職場、女性は家庭」という性別役割分担によって大きな成長を遂げました。この成功体験に基づく「日本社会はこのやり方でうまくいくんだ」という勘違いが今、いろいろな歪みを生んでいます。男性のみを前提とした働き方や慣習が残っている中で女性が社会参画を推し進めても、女性は疲弊するだけです。他の国々がジェンダー政策に力を入れて、ジェンダーギャップ指数のランキングで順位を上げていく中で、変化ができない日本は国際社会において取り残されていると言えます。

職場・家庭・地域における課題

職場においては、女性活躍を阻む“望ましい女性社員イメージ”が、まだ日本社会に残っています。例えば、明るさ、優しさ、サポート役といったイメージです。日々、様々なコンテンツでこのイメージを目にすることがありますが、多くの人々はこれらに違和感を感じていません。無意識の内にそのイメージに引きずられて、未だに変化できていないのが日本社会の現状です。

家庭においては、男性の家事時間の少なさが深刻な問題です。家事・育児を分け合って共に取り組むことが、お互いを分かり合うことに繋がります。いつまでも昔の性別役割分担にこだわって「家事・育児は女性の役割だ」という社会の在り方ではいけません。

地域においては、いまや自治会やPTAなどの社会活動団体はどこも縮小傾向にあります。新しい人がこういった団体に参加したがらない理由の1つには、行事に動員されるのが女性ばかりという状況があります。この状況を変えない限りは、いつまでも目指すべき男女共同参画社会づくりには到達できないでしょう。

DE&Iとは

DE&Iはダイバーシティ（多様性）、エクイティ（公平）、インクルージョン（包摶・受容）の略です。様々な背景を持つ人に合

わせて、スタート地点を整え、それぞれが持つ能力を生かすという考え方です。男女共同参画社会づくりにおいては、この考え方が必要なってきます。

社会の意識をどうすれば変えられるのか、課題を解決するには何が必要なのか、ているる塾を通して皆さん是非考えてほしいと思います。



て いるる塾修了生コラム 第14回



4期生

なかま
中眞

あやこ
文子
さん

プロフィール

沖縄県浦添市出身。沖縄国際大学文学部社会学科卒業。結婚を機に渡米し、13年の在米生活を経て、2019年に帰沖。2020年より沖縄科学技術大学院大学に勤務。

私は沖縄県男女共同参画センター「て いるる」の出会いは、今から20年ほど前にさかのぼります。

当時、私はアメリカ人の婚約者（現夫）との結婚を控え、渡米に向けて準備をしていました。その時「て いるる」で国際結婚セミナーを受講しました。そこで、沖縄には米軍基地があるため、米兵と国際結婚をする女性が多いが、経済力・英語力がないために、結婚後、米国で辛い生活を強いられている女性も数多くいることを知りました。「結婚生活が破綻しても、自由に使えるお金がないため、離婚して沖縄に帰ってくることができない」「英語が話せないため、自分の子どもが病気になっても救急車を呼ぶことができない」などの話を聞き、異国での結婚生活は、私が思い描いていたような楽しいことばかりではなく、厳しい現実にも向き合う必要があるのだと痛感させられました。

セミナー受講後、私は「渡米後も仕事をし自分の収入を得ること」「最低限の日常英会話はできるようになること」という2つのことを決心し、渡米しました。

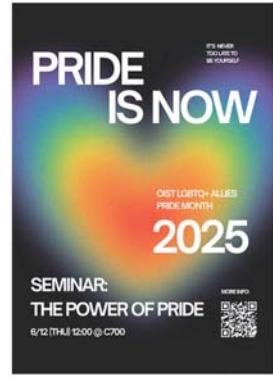
アメリカでは、英語が通じなく悔しい思いをしたり、ホームシックで悲しい思いをすることも多くありましたが、仕事を続けることで、自尊心を保つことができたように思います。

10数年の在米生活を経て、縁あって家族で沖縄に戻ってくることができました。現在の職場で、「て いるる塾生募集」のお知らせを受け取った時、また「て いるる」に関わることができると思い、喜んで応募しました。

男女平等が謳われて久しい今日に至っても、「男

性は外で仕事をし、女性は家で家事・育児をする」という男女の役割像が、まだまだ根強く残っていることを、帰沖後、私は自分の実体験から実感し、とても違和感を感じていました。「て いるる塾」で、そのような思い込みは、悪意のない、無意識な言動から培われていくものであり、その意識を変えるため、職場や社会の制度を整えるとともに、家庭や学校での、子どもたちへの意識付けも重要であると学びました。

私は現在、沖縄科学技術大学院大学（OIST）に勤めています。OISTは、ダイバーシティ（多様性）・インクルージョン（包括的）を学園のビジョンとして掲げており、それらをテーマにしたワークショップやセミナーも開催されています。子どもも一緒に参加したワークショップでは、学術・科学コミュニティにおける性的少数者に対する不平等などを聞くことができ、そのような差別をなくすため、自分たちに何ができるか、子どもと共に学ぶことができました。



▲OIST LGBTQ+ セミナー
のポスター（2025年6月開催）

「て いるる」、および、「て いるる塾」で学んだことは、私の生き方や考え方の軸となっています。

女性として、母親として、「個人が尊重され、お互いに支え合う社会」を形成できるよう、日々の生活でも意識、行動していきたいと思っています。



仲間と共に、踏み出す一步!
第7期「て いるる塾」9月からスタート!
40代までの女性を対象に職場・家庭・地域それぞれの場で活躍できる人材を育成する講座です!

女性が、自らの人生を自らの手で主体的に構想・設計する力である「ライフデザイン力」や、多様性を尊重する「ダイバーシティマインド」、人と人を繋ぐ「コミュニケーション系スキル」「ロジカル系スキル」など、自身の能力を高め、様々な分野で活躍できる人材を育成するとともに、塾生の皆様が互いに刺激し、励まし合いながら成長していく「ネットワークづくり」を目的として、令和元年度に開講し、これまで6期、164名が受講修了しています。



第6期生 報告書



《 て いるる 利 用 者 アンケート 》



沖縄県男女共同参画センター「て いるる」では施設運営の参考にさせていただくためにアンケートを実施しています。
皆さまのご意見を参考に、これからもより良い施設運営を行っていきます。 アンケート回答総数 29件 (令和7年8月実施)

1 年代

	(単位:人)					
10代	20代	30代	40代	50代	60代~	
2人	4人	4人	6人	7人	6人	
6%	14%	14%	21%	24%	21%	

2 て いるるをどのようにして知りましたか。※複数回答あり。

知人・友人	チラシ・パンフ	ラジオ	新聞	ホームページ	SNS	その他
18人	1人	0人	2人	4人	0人	4人
62%	3%	0%	7%	14%	0%	14%

3 何回目のご利用ですか。

はじめて	2~4回目	5~10回目	10回目以上
2人	4人	7人	16人
7%	14%	24%	55%

4 来館目的 ※複数回答あり。

催事主催	催事参加	図書室利用	その他
12人	14人	4人	0人
40%	47%	13%	0%

5 利用施設 ※複数回答あり。

ホール	2階図書室	研修室・会議室	和室・茶室・生活・創作室	フィットネスルーム	ふれあいサロン	その他
1人	3人	7人	5人	13人	0人	1人
3%	10%	23%	17%	44%	0%	3%

6 施設内の設備について

満足	やや満足	やや不満	不満
20人	8人	1人	0人
69%	28%	3%	0%

7 施設内の環境について
(安全性、空調、点字、案内等)

満足	やや満足	やや不満	不満
20人	8人	0人	0人
71%	29%	0%	0%

8 職員の対応について

満足	やや満足	やや不満	不満
25人	4人	0人	0人
86%	14%	0%	0%

9 施設利用の手続きについて

満足	やや満足	やや不満	不満
16人	10人	2人	0人
57%	36%	7%	0%

10 利用料金について

とても安い	安い	やや高い	とても高い
18人	10人	0人	0人
64%	36%	0%	0%

11 今後の利用について

より多く利用	同じくらい利用	少なく利用
18人	10人	0人
64%	36%	0%

施設ご利用のご案内

受付場所 て いるる 窓口

受付時間 9:00~20:30

(日曜日は 16:30 まで)

申込方法

予約の方法、利用料金、利用方法等、
詳細につきましては、事務局までお
問い合わせ下さい。

TEL:098-866-9090

詳細はホームページ
からもご覧頂けます。
→→→



アンケートのご協力
ありがとうございます。

て いるる 図書情報室事業案内



令和7年6月~7月の男女共同参画週間の期間に、八重瀬町にある「くじらブックス&Zou Cafe」さんで開催された「沖縄の女性史・フェミニズムブックフェア」にて いるる図書情報室の書籍を情報提供事業で貸出しました。

貸出冊数
沖縄の女性史関連本 20冊



展示の様子

離島・遠隔地(行政・団体等)情報提供事業とは！



遠隔地の行政窓口や男女共同参画に関心のある団体へ「て いるる 図書情報室」の図書を団体貸出しを行い、団体を中心に住民への図書の貸出しをしていただけます。

お問い合わせ先

沖縄県男女共同参画センター管理運営団体
て いるる 図書情報室

TEL 098-868-4077

て いるる 図書情報室講座

りゅうきゅう か ふ

「琉球家譜」琉球家譜に見える女性の歴史について」

日 時:令和8年1月24日(土) 13:00~15:00

講 師:鶴田 大 氏

(一般財団法人沖縄美ら島財団

総合研究所 琉球文化財研究室 琉球文化財研究係 主任研究員学芸員)

場 所:て いるる 3F 研修室

対 象:中学生から大人の琉球史に興味のある方

定 員:先着50名

参加費:無料

~琉球家譜とは?~

琉球王国時代に士族(サムレー)のみが所有をゆるされた、「家系に関する記録書」のことで、琉球王国の組織・行政・身分制度や歴史を知る重要な資料のこと

申込方法:て いるる受付窓口、図書情報室、またはお電話で申込下さい。

事業報告 公益財団法人おきなわ女性財団

女性相談支援員新任（養成）研修（全5回）

これから相談員をめざす方へ、必要な知識及び技能の基礎を学ぶ研修を同一プログラムで県内4か所で開催し、127人が受講しました。

日 時

- (1)名護市 令和7年7月3日(木) 4日(金) 29人
(2)石垣市 令和7年7月15日(火) 16日(水) 11人
(3)那覇市 令和7年8月20日(水) 22日(金) 55人
(4)宮古島市 令和7年8月27日(水) 28日(木) 32人

対 象

相談支援員希望者、実務経験概ね2年未満の相談支援員、女性支援に関心のある方、行政職員

内 容

- 1 「女性相談はなぜ必要か」(動画視聴) 講 師:松本 和子氏
(N P O 法人女性ネットSaya-Saya 共同代表 社会福祉士・精神保健福祉士)
- 2 「沖縄文化における「家」とジェンダー」
講 師:山城 彰子氏(女性史研究者・ていだあみ共同代表)
- 3 「女性相談支援員の役割と連携～つながる機関、つなげる役割について～」
講 師:知念 千秋氏(沖縄県こども未来部 女性相談支援センター 相談班長)
- 4 「相談員の基本を学ぶ」
講 師:倉 ますみ氏(精神保健福祉士・社会福祉士)
- 5 「相談業務の実例とメンタルヘルスケア」
講 師 名護市・石垣市:早田 真吾氏(天久台病院心理室室長・公認心理師)
那覇市:比嘉 紀枝氏(沖縄県公認心理師協会理事)
宮古島市:国生 まゆみ氏(公認心理師/臨床心理士)



講師 山城彰子氏



講座の様子 名護会場



講師 比嘉紀枝氏



講座の様子 宮古会場

令和7年度講座等企画団体助成事業

第6次沖縄県男女共同参画計画(D E I GO プラン)の推進を目的とした講座(沖縄県内の地域や民間団体が企画)に対して、実施にかかる経費の一部を助成しています。令和7年度は、5団体の助成を決定しました。

ビーザ チェンジ オキナワ
Be the Change Okinawa / エナ・助産所 / 女性たちのバトンをつなぐ会
糸満市女性団体連絡協議会 / 宮古島市女性団体連絡協議会 (申請順)

沖縄県
DEIGOプラン
詳細ページ▶



令和7年度男女共同参画研修参加費補助事業

男女共同参画の推進に資する国内外研修への参加を促進して、女性リーダー育成に寄与することを目的に研修参加費用の一部を補助しています。今年度は、2名の補助を決定しました。

女性起業塾

「あなたは主役になれる力がある！～想いをカタチに実現化～」

日 時:令和7年9月30日(火) 13:00～16:00 会 場:ているる3F研修室

対 象:起業を目指している女性、起業に関心のある方

講 師:伊敷 ありさ 氏 (AILEY Collection代表、モデル)

宮川 準 氏 (INPIT沖縄県知財総合支援窓口 支援担当)

小松崎 愛 氏 (沖縄県よろづ支援拠点 コーディネーター)

内 容:伊敷氏は、起業と育児の両立の難しさや周囲との就業に対する価値観の違い等から葛藤で苦しい時期もあったが、同じ境遇の女性との出会いがきっかけとなり前向きになれ元気をもらえたことで、「大人が挑戦するファッショショナーの主宰」や「琉球漆器を使ったアップサイクルアクセサリー製作」に挑戦できた体験を話しました。最後に「大人こそいつでも変われるきっかけがあり、それを活かしてほしい」と伝えました。

宮川氏は、知的財産権の種類と沖縄県内の特許・意匠・商標の登録例や、商標には種類があること、さらに商標登録の仕方のポイントについて詳しく説明し、「自社の製品やサービスがどの部分にあたるのかを確認して、支援窓口を活用し起業に役立ててほしい」と話しました。

小松崎氏は、創業時の重要な要素になる「資金調達」について話しました。「早い段階でしっかりと事業計画を準備することが融資につながることや、事業内容に沿った就業経験も必要で役立つこと、また各市町村や商工会などの無料の相談機関を活用してほしい」と伝えました。講座終了後には、個別相談会も行いました。



講師派遣事業

おきなわ女性財団では、市町村、学校及び当財団の賛助会員の企業・団体を対象として講座や講演会に講師を派遣する事業を行っています。令和7年度の第1回目は、南風原町で開催されました。

主 催:南風原町

開催日:令和7年8月15日(金)

14:00～16:00

対 象:防災、男女共同参画に興味のある方

内 容:「男女共同参画の視点から考える防災」

いながき さとる
講 師:稻垣 晓 氏
(社会福祉士・防災士)

沖縄での巨大地震発生の可能性、被災地のジェンダー課題などを確認しながら男女共同参画の視点から防災を考えました。



講師 稲垣 晓氏

講座の様子

令和7年度 女性人材育成事業

「ているる塾」公開講座

無料講座

(要申込/定員150名)



講師 嘉数 悠子 氏

天文学者 教育普及マネージャー (国立天文台、TMT 国際天文台)

プロフィール

沖縄県出身、海外在住25年の天文学者・科学教育者。シカゴ大学、パリ天体物理学研究所、カリフォルニア工科大学などで銀河の形成と進化を研究後、病をきっかけに人生を見つめ直し、教育普及へと軸足を移す。働くシングルマザーとして娘を連れ出張を重ねる中で、多様性やジェンダー平等の大切さを実感し、誰もが学びに参加できる社会の実現に力を注いでいる。ハワイでの暮らしへは、自分自身と沖縄を見つめ直す原動力となった。

10月25日(土)13:00～14:30

(開場12:30)

沖縄県男女共同参画センター「ているる」1階ホール

*一時保育あり(有料 要申込 10/16(木)締切)

お申込みはこちら▼

オープニング (13:00～13:05)
フラスタジオ「Lā Hilo Rainbow
(ラヒロ レインボー)」

フラダンス曲「Aia La 'O Pele (アイアラオペレ)」

講師の嘉数氏が現在活躍しているハワイ島に縁のある曲。古代ハワイの神々や自然の力を讃える伝統的な踊りです。力強いステップと腰の動きで、祖先への敬意と大地のエネルギーを表現します。



11/12～25 「女性に対する暴力をなくす運動」



「DVや性暴力に気づいたら相談されたら。
そのとき、私たちにもできることがある。」

DVや性暴力に気づいたり、相談されたら、あなたの考え方や気持ちを押し付けずまず寄り添って話を聞くことから、始めてみませんか。そして、どんな時も「あなたは悪くないよ」と伝えてください。年齢・性別を問わず相談できる窓口があることも伝えてください。

毎年11月12日から25日は女性に対する暴力のない社会を目指して行う「女性に対する暴力をなくす運動」期間として、全国の地方公共団体等では様々な活動が行われます。沖縄県男女共同参画センター「ているる」でも啓発パネル展を開催します。



令和7年度内閣府のポスター

11
/ 25
(火)

無料講座

令和7年度 女性支援等に係る相談員養成研修事業／令和7年度 啓発学習事業 法律講座①

「国際結婚・離婚にまつわるハーグ条約と家族問題」

国際結婚をする時、した時などに知っておきたいこと、知っておかなければならぬことについて架空事例などを通じて専門家から学ぶ講座です。

時 間 14:30～16:30
対 象 女性相談支援員定例研修受講者
相談業務に携わる方
関心のある方
会 場 ているる1Fホール
定 員 先着100名

1部 知っておくべきハーグ条約

えばた やすゆき
講 師 江端 康行 氏 (外務省 ハーグ条約室長)

2部 国際結婚・離婚にまつわる法律問題

まつざき あきふみ
講 師 松崎 晓史 氏 (ゆい法律事務所 弁護士)



▲お申込み

1
/ 30 (金)

無料講座

令和7年度 女性支援等に係る相談員養成研修事業／令和7年度 啓発学習事業 法律講座② 第1部

時 間 13:30～15:00
対 象 一般の方、関心のある方
会 場 ているる3F研修室
定 員 先着20名

「共同親権について」

はしもと ふみこ
講 師 橋本 典子氏 (法テラス沖縄法律事務所 弁護士)

事業報告 沖縄県男女共同参画センター管理運営団体

夏休みイベント 夏休み親子講座①

しつくい かいがら 「漆喰貝殻シーサー作り」

実施日時：令和7年8月3日（日）10:00～12:00
講 師：かかず かずこさん
(漆喰シーサー作り指導者)

場 所：ているる 3F創作室
内 容：本講座は、夏休みに親子講座として開催されました。最初に、漆喰にはワラと石灰が含まれており、沖縄で作られていること、またシーサーの土台となる鉢も沖縄産であるとの説明がありました。

続いて、講師から作り方の指導を受け、それぞれシーサーを制作し、好みの色に塗装を行いました。親子で楽しく取り組み、沖縄の伝統素材に触れながら学ぶことのできる有意義な時間となりました。



作品作りの様子

◀▲完成した作品

~ているる相談室~

公益財団法人おきなわ女性財団では相談窓口を開設しています。

相談料は無料（通話料は相談者負担）、秘密（プライバシー）を固く守ります。

	女性相談 TEL 098-868-4010	国際女性相談 TEL 098-880-3402	にじいろ相談 TEL 098-880-8434	男性相談 TEL 098-868-4011
日 時	火曜～土曜 10:00～17:00		土曜のみ 10:00～17:00	日曜と月曜 10:00～16:00
相 談 方 法	電話／面接（面接は予約が必要です。） 女性からの相談を女性の相談員がお受けします。		電話／面接 (面接は予約が必要です。)	電話 男性からの相談を男性の相談員がお受けします。 ※相談は、電話相談のみとなります。
相 談 内 容	特別相談（予約が必要です。） 専門家による面接相談 ◆法律相談（月2回） ◆こころの健康相談（月1回）	特別相談（予約が必要です。） 専門家による面接相談 ◆国際法律相談（週1回）	セクシャリティに関わる悩みや困りごとをご本人だけでなく、家族や周囲の方からのご相談もお受けします。	男性が抱える家庭や職場での人間関係、生き方、心や体の悩みなどの相談を電話でお受けします。
休 み	毎週日曜と月曜、年末年始（12/29～1/3）		年末年始（12/29～1/3）	祝日、年末年始（12/29～1/3）

賛助会員入会・継続のご案内

当財団の活動に賛同し、一緒に歩んでくださる皆様のご入会をお待ちしております。

特 典：情報誌「ているるちゃんがいく！」や講演会・講座情報などを文書にてお届けいたします。

年会費：個人会員 3,000円／学生会員 2,000円／団体会員 10,000円

※新規ご入会は、入会時期に（申込日）より金額が異なります。（公財）おきなわ女性財団までお問合せ下さい。

おきなわ女性
財団X
アカウント→



講座や事業内容は、ホームページ・SNSにも掲載しております。併せてご覧ください。

発行月：令和7年10月 〒900-0036 那覇市西3-11-1 沖縄県男女共同参画センター「ているる」

発 行： 公益財団法人おきなわ女性財団
TEL 098-868-3717 FAX 098-863-8662
ホームページ <https://www.okinawajosei.org/>



沖縄県男女共同参画センター管理運営団体

TEL 098-866-9090 FAX 098-866-9088
ホームページ HP:<http://www.tiruru.or.jp/>

